

Topics ■トピックス [学内情報]

◎ 関西大学協賛の「大阪マラソン2025」開催

関大生ランナーやボランティア、沿道応援に約500人が大活躍



2月24日、今年で13回目となる「大阪マラソン2025」(大阪府・大阪市・大阪陸上競技協会主催)が開催された。

“みんなでかける虹。”をスローガンに掲げ、公募により選出されたフルマラソンと720<なになに>マラソンのランナー約3万4,000人が疾走する一大イベントとなった。

当日、ランナーたちは大阪府庁前をスタート。道頓堀、京セラドーム、あべのハルカスなど大阪の名所を通過し、ゴールの大阪城公園を目指して駆け抜けた。沿道には110万人もの人々が詰め掛け、熱いエールでランナーを後押しした。

関西大学は第1回目からオフィシャルスポンサーとして大会運営に協力し、地元「大阪」の盛り上げに貢献してきた。今大会は、オリジナルウェアを着用した関大ランナー40人をはじめ、給水ボランティアとして学生ら約230人が参加。沿道では「ランナー盛上げ隊!」として約150人が集結し、関西大学応援団や混声合唱団「葦」、jazz研究会、吹奏楽サークルBis、カイザーズクラブチアダンスチームによる多彩で力強いパフォーマンスが大会に華を添えた。



また22日、23日にはインテックス大阪で「大阪マラソンEXPO 2025」が開催され、本学ブースではフォトスポットを設置し、UHA味覚糖株式会社とのコラボ商品「関大コロロ」のプレゼント企画を実施。さらに関大万博部が産学連携で開発した「関大クラフトコーラ『關杯』」や、社会学部・池内ゼミが吹田市と共同開発した「吹田くわいごはん」、「吹田くわいキャンディ」を販売したほか、マス・コミュニケーション学研究部の学生がデザインしたオリジナルキャラクター「かんだこ」のタトゥーシールを配布するなど、多くのランナーに本学の取り組みを紹介した。



◎ 第33回「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」授与式を挙

2024年度に活躍した関大アスリートの功績を称えて



3月6日、千里山キャンパスにて、第33回「関西大学体育振興大島鎌吉スポーツ文化賞」授与式が執り行われた。

本賞は、世界的に活躍したオリンピックであり関西大学OBの大島鎌吉氏の偉業を称え、関西大学が1988年に創設した文化表彰制度で、本学のみならず日本におけるスポーツ文化の振興及び推進に資することを目的とする。



▲受賞学生を代表して高橋智幸学長から賞状を授与される西田カビリーア桜良さん(左)



本学学生個人の部では、プロ野球中日ドラゴンズにドラフト1位で指名され、侍ジャパンシリーズ2024で日本代表に選出された野球部の金丸夢斗さん(文学部4年次生)、パリオリンピック・セーリング混合ナクラ17級に出場した西田カビリーア桜良さん(総合情報学部4年次生)ら18人が受賞。団体の部では、全日本学生賞典障害馬術競技大会 障害飛越競技で優勝した馬術部が受賞した。

JOINT PROGRAM ■社会貢献・連携事業／産官学連携

◎ 第29回関西大学先端科学技術シンポジウムを開催

フィールドを超越した最先端の研究成果を披露



▲(左)国立大学法人香川大学副学長 和田健司氏 (右)特別講演の様子

1月23日と24日、第29回関西大学先端科学技術シンポジウムが千里山キャンパスにて開催された。

本シンポジウムは、関西大学先端科学技術推進機構の研究員が取り組む多彩な研究成果を取りまとめ、広く社会や企業、産業界へ発表する学術交流イベント。今年は「フィールドを超越する先端科学技術」をメインテーマに据え、国立大学法人香川大学副学長で医学部教授の和田健司氏による特別講演「分野を跳躍する

個体触媒技術～医学に関わる化学から水素エネルギーまで～」にて開幕。学問の領域や国境を越えた幅広い共同研究の実例や経緯を解説した。

また、各会場では2日間で16件の招待講演、37件の一般講演、86件のポスターセッションが行われ、民間企業の参加者と本学学生が熱い議論を展開。2日間の参加者数は延べ850人以上となり、盛況のうちに幕を閉じた。

招待講演者の株式会社ゼンショー グローバルファストホールディングスが被災地で温かい食事を提供した「すき家のキッチンカー」を会場前に展示▶

